

学位取得 おめでとうございます

卒業・修了おめでとう。さまざま不安を抱えながらも、新たな一歩に向かって、元気に、わが日本工業大学を巣立って欲しいと願っています。

共有する力を鍛え 一緒に歩こう

卒の。そのために必要なのは「共有する力」です。仲間を信頼する力、みんなが頑張っているとき自分だけ力を抜かない力、困っている仲間を思いやる力、心を「共有する力」です。皆さんは、実験・実習・製図などの体験学習を重ね、「共有する力」の重要性を学んだはずです。その力を信じ、こ

れからも伸ばしてください。
古い話です。1964年の東京オリンピックの柔道無差別級決勝、日本のお家芸である柔道が外国人に負ける時がきました。勝者オランダのヘーシンクは、歓喜に酔い駆け寄ろうとする自国のコーチたちを、小さな手の動きで押さえました。敗者神永を思いやって



学長
波多野 純

「共有する力」は、立場を変え、相手の立場に立つて想像することでもあります。その場に居るすべての人と、さまざまな思いを「共有する力」を大切にしてください。
私は、ここ数年、卒業する皆さんに、「技術力」「予知力」「コミュニケーション力」は、立場を変え、相手の立場に立つて想像することでもあります。その場に居るすべての人と、さまざまな思いを「共有する力」を大切にしてください。

君が出張を命じられ赴いたアジアの生産拠点で、ラインに異音が出ていたとします。それを修理する力が技術力、ラインを止めるべきか否か、情報を総合して的確に判断する力が予知力です。そしてコミュニケーション力とは、現地の技術者と協力して、異音の原因を探る情報交換の力ですが、それに留まりません。うまく原因が究明でき、ラインが正常に動き出した時には、その成果を現地の技術者の手柄とする心の力が、コミュニケーション力です。この力が、やがて君への信頼につながり、現場は活気づき、新たな一歩を踏み出すことができるでしょう。これが本物の「共有する力」です。
君のすてきな報告を待ちながら、肩を叩いて送り出したいと思います。

みなさん、学位取得、おめでとうございます。そして、その学ぶ姿を暖かく見守ってこられたご家族のみな様に心よりお祝い申し上げます。
本学において、みなさんはそれぞれの技術領域で理論と実践を両輪として学ばれました。それは、かけがえのない財産となることでしょう。様々な現

力も更新していかなければなりません。同時に、技術だけでなく社会も刻々と変容を遂げます。そうしたことから何が課題なのか見えない、という状況に立たされることもあるでしょう。例えば、高品質で世界トップの信頼性を誇る日本製品がここにきて伸び悩んでいます。

エンジニアは 人間社会とともに



理事長
柳澤 章

場、ビジネスシーンで日々発生する課題は、理論と実践力が一体となってこそ解決が図られるからです。習得されたエンジニアとしての基本姿勢を持ち続けて、期待に応えるエンジニアに成長していただきたい。
技術というものは、陳腐化するものであり、従って自らの持つ理論と実践

今日、エンジニアは理論と実践力に加え、時代とともに変容する人と社会を見つめる力が求められているといえます。人がこうしたいと願うことに付加価値を提供する、あるいは思いもよらないものを作り出して人の暮らしを変えていく。いずれにしても人間を抜きにして技術も技術者もあり得ません。電

子書籍は当初、日本で売れるのか懸念されていたが、読書好きな世代である高齢者が普及を牽引しています。大きな字で読めて、持って軽く、作品を求めてあちこち書店を探さなくても済むのが電子書籍だったのです。
目の前の課題解決だけでなく、より広い視野で技術を見つめることが大切です。本学園では専門職大学院（MOT）という、エンジニアなどビジネス・パーソン向けの技術経営を学ぶ場を設けており、自らの技術をマネジメントの視点から、その価値を見つめ直しています。私はその研究科長を兼務しており、将来、諸君が実務経験を積まれ、さらなる飛躍を目指して入学される日の来ることを期待しています。
エンジニアは人間社会とともにある。その基本を胸に、大いに実践力を発揮し、羽ばたくことを祈念し、私からのお祝いと致します。

カレッジマイスターに61名を認定

リーダーとしての活躍を期待

本年度のカレッジマイスターエクセレントには29名が認定され、学位記授与式において学長から認定証とゴールドメダルが贈られる。カレッジマイスタープライマリーには32名が誕生し、4月の各学科のオリエンテーションにおいて認定証が授与される。エクセレントの称号を獲得した諸君には、それぞれの職場や学業の場において、活躍が期待される。プライマリーの称号を獲得した学生諸君には、他の学生のリーダーとしての活躍が期待される。



フォーミュラ工房の活動

■エクセレント

機械加工工房（3名）込山醇貴、小山寛人、新後閑亮太／型技術工房（6名）安藤義人、稲畑雅臣、井橋拓海、志田隼一、多部公貴、田村友明／フォーミュラ工房（3名）稲村文宜、岡田全史、三上正悟／モノ創りデザイン工房（1名）永田秀斗／ロボット創造工房

（5名）阿部聡、岡崎龍光、濱田凜、藤井健太、山村龍／マイクロ・ナノ工房（6名）伊藤弘朗、小野寺龍、斉藤直人、林俊行、門馬悠介、結城翼／マイコン応用回路工房（2名）浅見卓也、森隼人／インテリア工房（3名）笠原弘志、近藤昂、宿野部拓哉

■プライマリー

フィジカルコンピューティング工房（4名）大井隆介、小林達也、笹嶋悠輔、渡辺貴也／物理体感工房（3名）相木将希、出井佑樹、森戸和博／ものづくり入門工房

（25名）安達和貴、鍋木佑、清水友喜、吉浦寿希也、横山誉、石川伸一、渡辺真弓、浅古瞬、石川亮、大塚智晴、島村賢治、富田智大、根本輝、松村勝裕、横山駿也、吉岡洋樹、市川智之、伊藤拓海、織田晃治、斎藤智也、鈴木佑実、藤當雅弥、長谷川慶、新井岳紫、小松香歩

専門職大学院だより

研究科長退任にあたって

大学院技術経営研究科・研究科長 柳澤 章

学園は今、卒業生を送り出し、新入生を迎える、希望に燃えそして少しの別れの寂しさを感じる季節を迎えています。私もこの3月をもって研究科長を退任することとなりました。理事長職と兼務でありましたが、4月よりは新しい研究科長を迎え、運営していたべくことになりました。本大学院は、学園創立百周年を記念して、神田キャンパスと共に、平成17年に開設されました。学園は明治40年の創立以来、一貫して実践的技術教育に取り組む、真に実力のある技術者を輩出してきました。しかし、近年グローバルに激しく変化する社会構造の中で、技術者に求められる能力も、単に技術力だけでなく、総合的なマネジメント力を含む広範囲なものになっていきます。百周年を機に、学園は次の教育が目指すものとして、中堅技術者を対象に、実践的経験の上に技術経営能力を持った人材を養成することが、使命であると考えたのです。このような理念で設立された本大学院は、大学教育に組み、真に実

卒業後5年以上の実務経験を持つことを入学資格の基本として、数百人規模の企業の社長をはじめとする経営者、経営後継者、幹部社員、起業を目指す人、公的機関の方、そして外国大使館に勤務する人など、最高齢は71歳の人まで実に多士済々の方々がこれまで入学されました。教授陣も種々のビジネスの最前線で活躍されている方が多数おられ、生きた最新知識、経験を教授されています。そして私が最も誇りに思っていることは、修了された

全ての人が「ここで学んで本当に良かった」と感謝の言葉を表されることです。卒業生の皆さんには、種々の支援を行っていただいています。学位記授与式のガウン、奨学金、教育機器等々です。同窓会活動も熱心に行っていただいています。学生、教職員の皆さんには、お酒もいぶん付き合っていただきました。この大学院のさらなる発展を期待して、また関係する全ての人に感謝して、退任の挨拶とします。

機械工学科

平成
二十五年度
卒業生一覧
3月20日付
確定者

ものづくり環境学科

創造システム工学科

電気電子工学科

情報工学科

平成25年度学長賞受賞者

先の選考委員会を経て、平成25年度の学長賞の対象学生が決定した。本賞は、毎年優秀な卒業生に対し授与されるものであり、今年度は下記の通り15名が受賞した。

学 科	氏 名	出身校
機械工学科		
ものづくり環境学科		
創造システム工学科		
電気電子工学科		
情報工学科		
建築学科		
生活環境デザイン学科		

建築学科

生活環境デザイン学科

※日本工業大学付属東京工業高等学校は、平成20年4月から日本工業大学駒場高等学校に改名しています

大学院工学研究科修了生

●博士前期課程

●博士後期課程

宮代キャンパス学位記授与式 3月20日（木）

大学院技術経営研究科修了生

（予定）

●専門職学位課程

神田キャンパス学位記授与式 3月22日（土）

環境特別講演会開催報告

正しく知ろうPM2.5

1月11日(土)、本学学友会館において環境特別講演会が「正しく知ろうPM2.5」埼玉の状況と最新の研究」をテーマに開催された。本講演会は本学の環境教育と一般普及の目的で開催された。講師に埼玉環境科学国際センターの大気環境研究員である、米持真一氏を迎え、学生・教職員を中心に150名近くの参加があった。

成田教務部長の挨拶、講演会の趣旨説明と本学の環境教育の概要紹介に続いて講演が行われた。米持氏は民間企業を経て埼玉県庁に入庁後、平成12年の埼玉環境科学国際センター設立時から大気環境担当に所属し、専門研究員として活躍している。PM2.5とは、大気中に浮遊する粒子状物質(Particulate Matter)のうち、粒径が2.5μm以下のものを指す。肉眼では見ることのできない非常に小さな粒子で、呼吸とともに肺の深部に到達して、健康に悪影響を及ぼすことが指摘されている。同センターでは設立時からPM2.5の測定を継続しており、平行して国内では唯一さらに小さなPM1の測定も行っている。米持氏はそれら測定の実際の、人為起源と自然起源の違い、粒径による違いなどについてわかりやすく解説した。研究の現場は関東近辺のみならず、大気の影響や大陸との関係の調査などのために、高山や海外各国にも及ぶ。現場の研究者ならではの、臨場感に溢れた詳細なデータを踏まえた講演に、参加者も熱心に聞き入っていた。

博士号取得おめでとーございます



測定結果などを基に分かりやすく解説する米持氏

埼玉県春日部市・武里団地

建築学生が企画した

キャンドルナイトを実施

12月22日(日)冬至の夕方に武里団地中央近隣公園において、本学の団地入居学生と建築学科3年「地域デザイン設計」履修の学生らがキャンドルナイトを企画、実施した。キャンドルを灯す紙

学長と学生代表の懇親昼食会

懇親昼食会は1月20日(月)、学生自治会の各委員長6名、体育会会長及び文化団体連合会会長と波多野学長、竹内学生支援部長、吉見学生支援課長、鈴木学生支援課主任が出席して行われた。



学生の自己紹介と所属団体の活動内容等が報告された後、学長から、学生の飲酒に関する諸注意についての話があった。



た。学生からは合宿棟の空調等の環境について改善要望があり、この件については、大学側で調査して検討することになった。40分という短時間ではあったが、学生たちも気兼ねすることなく、始終和やかな雰囲気であった。

本学学生が設計を担当した

エコカフェがオープン



大きなガラスを用いた開放的な外観

障がい者と健常者が共に働き、集いの場や情報発信基地としての役割を担う「eco cafe MINT(エコカフェ ミント) みやしろ」が埼玉県春日部市中央3丁目にオープンした。店舗の設計は建築学科小川研究室所属の研究員・田沼大輔

君らが担当。外観は大きなガラス張りの開放的なイメージで、内装は木製家具などを配した温かみのある雰囲気になっている。田沼君は「これから地域住民への情報発信に向け、メンバーと協力して各種イベントの企画を考えたい」と抱負を述べている。店舗を開設したのは特定NPO法人「じりつ」を運営する松岡広樹氏。月曜を除く平日に営業しており、各種ドリンク、カレーライス、お弁当などを提供している。

留学生別科修了式

式は3月1日(土)に学友会館にて執り行われ、中国、台湾やタイからの修了生5名(早期修了生1名含む)が出席した。修了生達は波多野学長から修了証書を授与され、激励の告辞を受け、今後の目標への決意を新たにした。彼らのうち4名は本学学部及び大学院に進学・編入予定である。式終了後に祝賀会が催され、修了生達は恩師や在校生から祝福を受けた。



修了証書を受け取る修了生

春のオープンキャンパス

大学ってどんなところか見てみよう! 学科紹介・研究室ツアー 体験授業・個別進路相談など

3/30(日)

天満宮例祭

本年も日本工業大学天満宮例祭が2月22日(土)、11時より天神門横の杜前において厳粛に執り行われた。当日は、田川崇敬会会長をはじめ役員各位、柳澤理事長、波多野学長以下、各学科主任と部・課長、さらには学生自治会から青木中央執行委員会委員長をはじめとする8名の学生自治会幹部学生が参列し、一同が学生諸君のより一層の学業向上と繁栄を祈念した。



玉串奉奠

自治会から「恒例行事にしてほしい」と要望があった。学生たちも、「今回の反省点を活かし、次回に繋げたい」と話した。



ワークショップで子供たちがキャンドルを制作

人事異動

- 【定年退職】(3月31日付) ◆梅崎栄作教授(機械工学科)
- ◆小野雄策教授(ものづくり環境学科)
- ◆鈴木敏正教授(創造システム工学科)
- ◆坂本康治教授(情報工学科)
- ◆原田昭教授(工業教育研究所)
- ◆森正美准教授(電気電子工学科)
- ◆酒井康夫参与(財務部)
- ◆大森純子事務職員(教務課)
- ◆吉川寿子事務職員(就職支援課)
- 【退職】(2月8日付) ◆成田剛准教授(建築学)
- ◆渡辺勝彦教授(生活環境デザイン学科)
- ◆武藤剛准教授(情報工学科)
- ◆富山孝義講師(電気電子工学科)
- ◆ジュリアンチェスワース講師(英語教育センター)
- ◆川村真司事務職員(教育研究推進室)
- 【任用】(1月1日付) ◆ジョンポータス講師(英語教育センター)
- ◆国松俊彦事務職員(施設環境管理課)
- 【任命】(1月1日付) ◆入試課長 齊藤 望

町より 宮代 187号

宮代の春を満喫「桜市」

毎年、桜の咲く頃に、等原小学校前の姫宮落川の桜並木の下で「桜市」を開催しています。地元商業者等による味自慢、腕自慢の屋台村のほか、宮代進修太鼓やお琴の生演奏、地元小中学生によるフラス

バンド等の演奏が行われます。最近では、コスプレイベントの参加者も桜市に多く参加してくるようになり、大変賑わっています。今年の桜市の詳細は、広報みやしろ3月号や、町ホームページ等でご確認ください。みなさんも美しい桜を眺めながら、宮代の春を満喫してみませんか。ぜひお越しください。

国外出張

- ◆原田 昭教授(工業教育研究所) / 出張先 イタリア(1/19~1/23) / 目的 Ⅱ 文部科学省委託事業・研究視察
- ◆宮澤 肇(国際交流) / 出張先 Ⅱ フィリピン(1/28~2/1) / 目的 Ⅱ 埼玉・セブものづくり人材育成事業1月現地調査に参加
- ◆田中隆治准教授(英語教育センター) / 出張先 Ⅱ カナダ(1/31~2/12・2/17~3/2) / 目的 Ⅱ 海外英語セミナー参加学生に対する現地指導・支援等
- ◆田中隆治准教授(英語教育センター) / 出張先 Ⅱ アメリカ(2/13~2/16) / 目的 Ⅱ 教材研究(総合英語、基礎・実用英語)
- ◆神林 靖准教授(情報工学科) / 出張先 Ⅱ フランス(3/5~3/10) / 目的 Ⅱ 第6回エージェントと人工知能国際会議にて論文発表

編集後記

▼卒業生諸君、学位取得おめでとう。ご卒業にあたり、詩人で彫刻家の高村光太郎が著書「オーギュスト・ロダン」で記した文を紹介したい。▼「到着点を人間の忍耐力にとって余り遠ざると考えてはなりません。年取ってからでなくは其処へゆけません」。何かを成し遂げようとする意をした若者にとって、その課題が困難であればあるほど、道は、とてつもなく遠く思われるといった意味だろう。▼そして、時にはどこに通じる道かも見失われそうになる怖れもあるとの言だ。若者であれば、必ず一度は通る道と呼んでいいのかも知れない。▼彼の文は、そのような迷いが生じた時の大きな慰めになるはずだ。なおこの文の前段は「人は前へ出ます。けれども暗中模索の幾年か後の事です」。▼まさに、卒業生諸君の行く道は果てしなく遠い。だからこそ焦らず慌てず着実に歩んでほしい【信】